

# 来週の「売り物記事」はこれ



2018年6月1日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## パンダの命をつなぐ

自然繁殖を目指した上野動物園・前園長

3日(日)



上野動物園で昨年誕生したジャイアントパンダ「シャンシャン(香香)」はすくすく育ち、6月12日で1歳になる。上野動物園は6年前、生まれたばかりの赤ちゃんが死んでしまう挫折を経験した。当時、園長だった土居利光さん(66)は記者会見で大粒の涙をこぼした。その涙の訳とは何だったのか。そして、どのようにして、その挫折を乗り越え、シャンシャン誕生につなげたのか。園長を退き、現在は日本パンダ保護協会会長として奔走する土居さん。同僚や地元の人たちとともに「上野にパンダの赤ちゃんを」と願い続けた、その思いに迫る。



筆者は富山支局(前東京社会部)の柳澤一男記者です。

きらり シニアモデル・滝沢恵美さん

サラダぼうる面 4日(月)



「人生には、まだ輝ける場所がありますよ」。男性カメラマンから声をかけられたのをきっかけに、シニアモデルの道を歩む滝沢恵美さん(76)。横浜市に生まれ、職場結婚。2女を育て上げ、雑誌やCMなどで活躍中です。自宅でゆっくりする時間はほとんどなく、「外に出て人と会えば刺激を受ける。すべてが人間磨き」と話す滝沢さんのパワフル人生を紹介します。

## スポーツと国の価値観

夕刊特集ワイド 4日(月)

スポーツの成り立ちには、その国の社会の変化や理想が映し出されている——。そう考え、米国を読み解いた人がいます。

アメリカ文化を研究する慶応大教授の鈴木透さん(53)。夕刊編集部では、「スポーツ国家アメリカ」(中公新書)を刊行した鈴木さんにインタビューしました。

日本大の悪質なタックル問題で焦点を集めているアメリカンフットボールは、米国を代表するスポーツで国技とも言われています。そして野球は、かつて米国を植民地にした英国のクリケットへの反発から生まれました。

別の角度からスポーツを見れば、国の価値観が分かるのでしょうか。



道産子力士、復活の予感 今月の「月刊相撲」 スポーツ面 5日(火)



大鵬、北の湖、千代の富士……いずれも北海道が生んだ偉大な横綱です。これまでに8人もの横綱を輩出した「相撲どころ」北海道ですが、北勝海(現・八角親方)が1992年に現役引退して以降、横綱はおろか大関も誕生していません。しかし今年の夏場所では、旭川市出身で新入幕の旭大星が10勝5敗で敢闘賞を獲得。他にも十両の矢後、幕下上位の一山本など「幕内予備軍」の道産子力士もいます。

月に一度、大相撲の魅力を紹介する「月刊相撲」ページで、北海道勢の衰退と復活の理由を探ります。

## 食 梅雨にエスニック料理

くらしナビ A面 5日(火)

湿気が多い梅雨の季節。気分もジメジメしがちですが、こんな時は暑い他国の料理で元気に乗り切りたいものです。「冷やしトマトと豚しゃぶのエスニックそうめん」や「オクラの肉巻きスイチリバター炒め」、「パクチーと水菜のエスニックサラダ」など家庭で楽しめるエスニック料理を、料理研究家で管理栄養士のエダジュンさんに教えてもらいました。



## 親ありて サッカーW杯日本代表・槇野智章選手の両親

くらしナビ A面 6日(水)、7日(木)



サッカーのワールドカップ(W杯)ロシア大会が14日(日本時間15日)に開幕します。日本代表で最終ラインを任される槇野智章選手(31)＝浦和レッズ＝の両親は「幼い頃から、病気ではなく、けがが心配だった」と振り返ります。

3800グラムで生まれた槇野選手は3人兄弟の末っ子。サッカーへのモチベーションを高めるために母親が取った驚きの行動とは――。

## 進化する患者支援のスマホアプリ

医療・福祉面 6日(水)

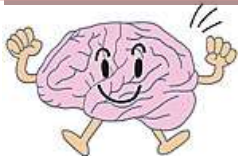
スマートフォンが医師の代わりに問診して指導をしてくれる――。そんな時代は近いかもしれません。患者の生活や治療を助けるスマホアプリが、ここ1～2年で続々登場しています。日々の健康状態の記録を目的とするものから、治療効果のある医療機器としての承認を目指すものまで、タイプはさまざま。

開発の現状と、見えてきた課題をお伝えします。



## 脳の情報を読み取る技術

科学面 7日(木)



人が頭に思い浮かべた内容を外から読み取る。こんなSFのようなことが、脳の計測や人工知能(AI)の技術の向上によって夢物語ではなくなってきました。手が動かせないなどの障害を持った人が意思を伝える手段として活用できる一方、内心の自由やプライバシーを侵しかねないという倫理的問題もはらんでいます。

この分野で世界をリードする日本の研究者を訪ね、最新の事情を取材しました。